自立に向けた自己理解の促進

1・2年次

希望進路を率直に語れない生徒たち

厚生労働省が2022年に公表した、19年3月卒業の新規高卒就職者の就職後3年以内の離職率は、35・9％で、前年度より1・0ポイント低下しているが、高卒就職者の約4割が早期退職しているのが現状だ。早期退職の防止には、適性検査などによる自己理解、企業の採用担当者との面談などを通じた業界・企業研究、そして職場体験や会社見学などにより、生徒の就職観を醸成し、それらを校内の個人面談で納得のいく志望企業選定につなげることが重要だ。しかし、現場からは、「高校までの学びや家族関係で様々な問題に直面し、自己肯定感を育めず、自分の希望進路を率直に語れない生徒が多い」といった声も聞こえる。そこで今回は、生徒が進路について気軽に教師と話すことができる空間を校内に設け、対話を通じて生徒の自己理解と自己肯定感醸成を目指す、宮城県・石巻市立桜坂高校の取り組みを紹介する。

実践事例

傾聴を通して、生徒の自己理解を支援

宮城県・石巻市立桜坂高校

カフェのような雰囲気の中、生徒が気軽に進路を語る

宮城県・石巻市立桜坂高校では、19年度から、進路資料閲覧室の一角を、生徒が自由に時間を過ごせる場所として、昼休みと放課後に開放している。その名も「進路相談スペースさくらかふぇ」（写真）。そこで生徒たちは、おしゃべりをしたり、昼食を取ったり、隣接する進路指導室の教師や就職支援員に話を聞いてもらったりと、思い思いの時間を過ごしている。進路指導部長の遠藤則靖先生は、「生徒の主体的な進路選択を実現するためには、悩みや思いを自由に語れる場が必要だ」と語る。

「採用試験に向けた模擬面接中、志望理由をつぶさに聞いていくうちに、生徒が突然涙を流すことがありました。保護者との関係、小・中学校での体験、そして東日本大震災での被災経験など、様々な悩みや思いを抱えているのにもかかわらず、それらを十分に聞いてもらえないまま、就職という進路選択に臨んでいる生徒が多いということに、本校に赴任して気がつきました」

そこで桜坂高校では、19年度から進路指導部の重点テーマを「聴く」とし、生徒が気軽に立ち寄り、何気ない会話の中で自分の思いや悩みを自然に語れる場として、「さくらかふぇ」を開設した。観葉植物を置く、BGMを流すなど、気軽に足を

写真「さくらかふぇ」では、教師や卒業生による進路相談（上）や、企業や上級学校の説明会（下）なども行われる。

変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走

運べる雰囲気をつくり、入り口は常に開放している。実際、ちょっとした空き時間に「さくらかふぇ」を訪れる生徒が多く、また、結果的に、進路資料の閲覧者数も増えたと言う。

思いを聞いてもらえる場が、生徒の主体的な進路選択には必要

「さくらかふぇ」の利用時間は原則として昼休みと放課後だが、始業前の空き時間もあえて開放している。始業前は「さくらかふぇ」内に人がいないため、生徒もほかの生徒の目を気にしなくてよく、進路指導室の教師に話しかけやすいからだ。長くは話せなくても、ちょっと言葉を交わして、「じゃあ、続きは放課後に話そう」と教師が約束することで、生徒は安心して教室に向かえる。生徒がぽろりと言葉をこぼし、それを教師が受け止める場所として「さくらかふぇ」は機能している。

最近増えているのは、希望する就職先などについて保護者と十分に意思の疎通ができない生徒だ。

「私たちと話す中で、『親からはこの進路がよいと勧められたけれど、本当は自分はこういう進路に進みたい』と打ち明ける生徒が多くいます。ただ、生徒にとって、自分の考えを保護者に伝えるのは簡単なことではありません。そこで、『そうなんだ。そういう進路を目指しているんだね』と受け止め、『その先は、どんな進路を描いているの？ぼんやりでもいいから、今の考えを聞かせて』などと、生徒の言葉に耳を傾けながら、保護者に話をしてみるよう促します（図）」（遠藤先生）

就職支援員として週3日、同校を訪れる伊勢（いせ）みゆきさんも、「聴く」ことの大切さを指摘する。

「大人は、生徒の考えを聞くよりも、こちらの考えを先に語ってしまいがちです。生徒は、そうした経験が続くと、自分のことを話そうとしなくなります。生徒にとっての心理的安全性は、大人が『聴く』ことによって確保されるものですから、生徒が自由に思いを語れる『さくらかふぇ』は、自己肯定感が育まれやすい場所だと思います」

「『さくらかふぇ』は、いつも生徒や教師でにぎやかです。本校の進路指導部は、若手教師が多いこともあり、隣の進路指導室にも足を運びやすくなったようで、1・2年生も気軽に進路の話をしに訪れます。私たちに悩みを打ち明け、涙する生徒も多いですが、話した後には笑顔になり、『また来ます！』と言って、教室に戻っていきます。生徒は自分の思いを語りながら、自分自身を理解する場の大切さを実感していると思います」（遠藤先生）

図 「さくらかふぇ」での生徒とのやり取りの例

生徒：今の自分はこの分野で働きたいと思っています。でも、母は、『あなたには無理！』と言って、きっと認めてくれないと思います。

教師：それをお母さんに言ってみたの？

生徒：どうせ駄目って言われるだろうから、言ってません。

教師：勇気を出して話してみない？　駄目って言われるかもしれないけど、まずは伝えてみようよ。

生徒：……

教師：自分の気持ちを伝えないまま、社会に出て、大人になってしまっていいの？

生徒：それは嫌です。

教師：じゃあ、自分にできることは何だろう？

生徒：……勇気を出して話してみることです。

教師：うん、話してみよう。先生は、お母さんと意見が食い違ってもいいと思っているよ。自分の考えを伝えることが大事だし、お母さんはきっとあなたの覚悟を知りたいんだと思うよ。

「実際に保護者に話すまで時間がかかる生徒もいますが、ほとんどの生徒は、保護者に自分の考えを話したと、私に報告に来ます。もちろん、保護者に否定され、言い合いになってしまうケースもありますが、まずは私は、『よく自分の考えを言えたね。今回の勇気は、あなたが自分で人生を選択する力につながると思うよ』と、心から生徒を褒めます。すべての保護者がすぐに子どもの考えを受け入れるわけではありませんが、多くの保護者が、それまでよりも子どもの話を聞くようになると、生徒の話から感じます」（遠藤先生）

取材にご協力いただいた先生、就職支援員

遠藤則靖（えんどう・のりやす）**進路指導部長**
伊勢みゆき（いせ・みゆき）**就職支援員**

桜坂高校進路指導部

木村州哉（きむら・しゅうや）**進路指導部副部長**
佐藤直幸（さとう・なおゆき）
松本紗季（まつもと・さき）
浅野善則（あさの・よしのり）
門澤芳恵（かどさわ・よしえ）

学校概要

◎**設立**　2015（平成 27）年　◎**形態**　全日制／普通科／女子校　◎**生徒数**　1学年約 130 人
◎**2021年度進路実績（現役のみ）**　4年制大は、石巻専修大、仙台白百合女子大、東北生活文化大、東北福祉大、東北文化学園大、宮城学院女子大、麗澤大、京都外国語大などに延べ 26 人が合格。短大・専門学校進学 63 人。就職 42 人。